

# 小田原福祉会・事例研究発表会

特養ホームなど30の事業所を運営する小田原福祉会

(時田純理事長)。日ごろ接点のない事業所間の職員が交流し、お互いのケアの取り組みを学び合うため、年に1回事例研究発表会を開催している。今年は10月25

〜28日に開催し、利用者の家族や職員など約350人が参加した。

事例発表大会は7回目。時間帯は4日間毎日午後6時から8時。さまざまなシ



フトで働く職員や、仕事を  
持つ家族などにも参加して  
もらうためだ。

最終日の4日めは5事業  
所が発表した。初めて取り  
組んだターミナルケアにつ  
いて報告したのは、小規模

## 4日間 学びと交流

多機能型居宅介護  
「みんなの家ほた  
るだ」。糖尿病の  
症状がある要介護

4、71歳女性は身  
寄りが無い。病院  
にいたくない、か  
とって自宅も不  
安だという本人の  
思いを小規模多機  
能で受け止めるこ  
とにした。職員  
は、その人らしく

も、ターミナルケアの勉強  
会を行い、最期の場面に直  
面しても戸惑わないよう準  
備した。

足湯に行った際、友人に  
終末期の状態を告げると、  
後日、多くの友人がお見舞  
いに訪れ、最期を迎える不  
安な気持ちや和らいだと言  
う。その後、友人と職員が  
見守る中、亡くなった。

「馴染みの友人と職員で  
看取ることができたのは、  
小規模多機能だからこそ。  
病院に入院していたら難し  
かったのではないか」(発  
表者の介護職員・近藤孝雄  
さん)。発表会には、足湯  
仲間の知人女性も訪れてい  
た。「発表を聞いて本人も  
悔いがなかったと思う。改  
めて職員の皆さんに感謝し  
たい」と話した。

好きな花や亡き夫の写真を  
飾るなど自宅と同じような  
環境づくりをした。元気な  
頃に友人と通っていた足湯  
にも一緒に行った。職員

時田理事長は「職員だけ  
でとどめておくのはもった  
いない」と、来年は市民向け  
に公開する考えを示した。